

リュウゼツラン属 (Agave) の 開花について

横山 裕彦

リュウゼツラン属の中には成熟に長い年月を要し、開花後、植物体が枯死する種が多く、一般的に20～50年で開花することが知られている。1994年6月～8月に当植物公園でファイリウスバリュウゼツおよびアオノリュウゼツランの2種が開花した。広島地方でのこれらの種の開花例は珍しく、当園においても前者は2度目、後者は初めての開花であった。また、ファイリウスバリュウゼツは定植後8年という短期間での開花であったので記録する。

ファイリウスバリュウゼツ

サボテン温室で1978年11月からファイリウスバリュウゼツを育成し始めて以来、1986年6月に初めて開花した。その際、枯死した親株の元に生じた子株を同じ場所に定植したところ、8年後の1994年6月に開花した(写真1)。前回の開花については本誌10号に報告されている。

開花状況及び花の各部の測定結果を表1、2に示した。測定方法は前報と同様に行なった。開花の約2カ月前に花茎が伸びはじめ、約1カ月前から徐々に葉色が黄色っぽく変色した。花茎は分枝して44個の小花茎を生じ、それらはさらに分枝して円錐花序を形成した。小花茎当たりの花数は3～174であって、推定総花数は約5,700と算定された。1カ月以上の花期があり、

表1. 開花状況

学名	園芸名	開花日	草丈* (cm)	花茎基部の 周囲 (cm)	小花茎数	花色
Agave americana	アオノ	'94年 8月14日	625	31	26	黄緑色
	リュウゼツラン	'94年 8月23日	590	29	17	
A. angustifolia	ファイリウスバ	'94年 6月24日	440	23	44	黄緑色
Haw. cv. Marginata	リュウゼツ					

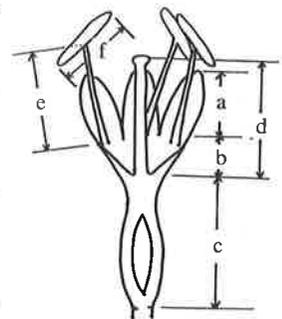
* 地際より花茎の先端までの高さ

表2. 花の各部の測定値*

園芸名	花被片 a	花筒 b	子房 c	雌しべ d	花糸 e	葯 f
アオノ リュウゼツ	3.5	1.0	2.8 (4.3)**	6.5 (8.0)	7.3	3.2
ファイリウスバ リュウゼツ	2.2	0.7	2.2 (2.4)	4.6 (7.2)	6.0	2.1

* 開葯時の測定値

** () 内は雄しべが枯れた時の測定値



花の断面模式図

その後、子房肥大はほとんど見られず、9割以上は花茎上で子株となった。子株の中には極く稀に斑の入り方がうぶ*や深覆輪になった変異個体が見られた(写真2)。開花約3カ月後の9月に本体を切り倒した。

前回と比較し、草丈は高く、小花茎数や花数などは多かった。花の各部については、前回とはほぼ同様な測定結果が得られたが、子房と雌しべは花の齢が進むにつれて伸長がみられたため、前回との比較はできなかった。2度の開花は8年サイクルという短期間であるが、これは偶然なのか、今後の他の株の開花を待ちたい。

*うぶ：緑が全く無くなり、白くなった状態。



写真2 うぶや深覆輪になったフィリウスバリュウゼツの子株

アオノリュウゼツラン

大温室入口に向かって左手、屋外に1975年に植えられた3株のアオノリュウゼツランのうち2株が1994年8月に開花した(写真3)。

開花状況及び花の各部の測定結果を表1、2に示した。開花の約2カ月前に花茎が伸び始めると同時に、徐々に葉が萎れてきた。約1カ月前から小花茎を伸ばし、小花茎はさらに分枝した。小花茎当たりの花数は、早く開花した株が



写真1 フィリウスバリュウゼツ (平成6年8月17日)



写真3 アオノリュウゼツラン (平成6年8月25日)

4~50、遅い株が20~100であった。小花茎は各々26と17であり、推定総花数はそれぞれ約800、1,300と算定された。子房、雌しべは花の齢が進むにつれて伸長した。花期は約1カ月で、その後徐々に落花し、子株はできなかったが、半数以上は子房が肥大した。

2株での開花状況、特に小花茎や花数に差がみられたが、これは小花茎が何かの影響によりうまく分枝しなかったためと思われる。花の各部の大きさは、2株とも同様であった。

本調査においてフィリウスバリュウゼツは子株主体で、アオノリュウゼツランについては種子主体で繁殖すると思われる。これが種の特異性なのか、あるいは何か別の要因によるものなのかは今後の調査課題としたい。

〈参考文献〉

- 林 良之 1988. サボテン温室におけるリュウゼツラン属 (Agave) 4種の開花について. 広島市植物公園栽培記録 10:12-13
 長谷川 茂 1980. リュウゼツランの開花について. 日本植物園協会誌 14:3-5
 岸 密晴 1990. 園芸植物大辞典 1. p.24. 小学館.